



第126号

心配は慈悲の心

暑中お見舞い申し上げます。各山住職・檀信徒の皆様
お変わりございませんでしょうか。

コロナ禍が始まり約一年半の日々があつという間に過ぎました。

先日引接寺に付近の西小学校三年生が「我が町のお宝発見授業」として、大雨の中大勢参詣してくれました。寺の歴史や建造物、宝物、境内等について説明、案内したところ、後日感想文をまとめていただきました。その中で「私も勉強や運動がんばりますから、山主さんもお体をくれぐれも大切にお仕事がんばってください。」というありがたい言葉で結ばれたものが何人もありました。

この間の無沙汰のあいさつは決まって「変わりなきか？」との声かけとなりました。家族をはじめ周りの人の健康を思いやり、無地を祈る他者への心配り「心配すること」が私達の日常となりました。「心配」は慈悲の心に通じる菩薩の心根でありましょう。

さて、先の三月臨時宗議会にて今秋予定の「不断念佛相続十九萬日大法会」の一年延期が決定されました。同時に武田圓龍管長猥下からこの一年「お念仏を喜ぶ生活」を積み重ね、来る大法会に向けて、お念仏の行を励みましよう、という道が私達に示されました。

ちょうど同じ頃、引接寺千部会に参詣された複数の御婦人から「私達が宅にあって日々御回向している「在家勤行式」などによる私達も一緒にお勤めできる法要はないですか?」という質問とお願いをされました。現在本山や末寺で直ぐ手にとれる「在家勤行式」は江戸時代伊勢木造引接寺に住まれ、伊勢教区別格本山西来寺を中心に伊勢はもとより、江州湖東方面の寺々まで遊化法施され「御念仏の道」を実施された「法道和尚」が修められました「別時念仏法」の次第が大きく反映されています。

それによりますと(一)三礼(二)香讃(三)歎仏(四)発願(五)開闢文(光明遍照十方世界)の観経文の後、真読念仏数百返(六)廻向文(阿弥陀仏を始め諸菩薩、



福井教区引接寺住職 市川 隆成

天台列祖)を掲げ(七)礼拝(八)臨終要文(九)四弘誓願にて終わります。

法道和尚は文化七年(一一八〇)秋に引接寺二十四世真厭上人をはるばる訪ねられ、安心を問われたところ、「偏に弥陀の本願を信じ、口称念仏である」と答えられ安心の正旨を求め、道心を増進せしめたその疑念を払拭し念仏相続に邁進されたといえます。(法道にみる持戒念仏Ⅱ西来寺寺井御山主著参照)

真盛上人奏進御法語に「御氣もよくすしみ候らわん時は、いかにもいかにも念仏の功を上げましたまい候べく候」とあります。これから「御念仏を喜ばしていただく日送り」としていただくため、私のおります引接寺をはじめ、各寺において、いわゆる参加型の御法事「別時念仏会」を勤めて念仏の功を上げんで参りましょう。

「念佛相続十九萬日法要」ですから、我が宗の日々念仏を積み重ね、節目の萬日法要を営む方法が他宗門に類を見ない独得のものとされております。

私達は真盛上人や法道和尚など先師先徳が相続して来られた宗祖真盛上人の「あい構えて無欲清浄にしてよくよく念仏すべし」の御遺誡を受けつぎ、在家勤行式等を利用し、別時念仏を営み、御念仏(口称念仏)を日々相続したいものです。来る「十九萬日法要」に本山にて共に参りいたし、御念仏を唱え、次の世代(二十萬日法要)へ向け受け渡していきましょう。

結びに、本年六月四日に天台宗開祖教大師の一千二百年大遠忌御祥当法要が比叡山諸堂で営まれました。この大遠忌を記念して、特別展「最澄と天台宗のすべて」が京都国立博物館において令和四年四月十二日より開催されます。先般引接寺に御開山が御土御門天皇より賜ったとされる『金銀鍍菊花文散銅水瓶』国指定重要文化財の出品依頼が京都国立博物館からありました。真盛宗内の至宝も多数出品されるとのことです。又とない機会ですの至宝の数々と共にご覧下さい。

西教寺の本尊

大津市歴史博物館 学芸員

寺島 典人

西教寺の創建当初の本尊については史料も無く、残念ながら全く不明です。

『真盛上人往生傳記』によれば「西教寺本尊丈六弥陀（毘首羯磨作）脇土不動毘沙門両尊也」とあり、丈六の大きな阿弥陀如来像と、不動明王像と毘沙門天像を脇侍とする三尊が本堂に安置されていたようです。さらに「真盛上人絵伝記」にも、このさまが描かれ

ていますから、少なくとも真盛上人の時代には、このような尊像配置であったことが伺われます。そもそも、中尊

の左右に不動明王と毘沙門天をまつる形式は、比叡山の横川中堂が発祥といわれ、横川の関連寺院であった西教寺の本尊形式としてふさわしいものでした。残念ながらこのご本尊は元龜二年（一五七二）の元龜の法難で焼失して



阿弥陀如来坐像

しまいましたが、すぐさま復興し、安置されたのが現在のご本尊、阿弥陀如来坐像（重要文化財）です。記録を見ると、享保三年（一七一八）の『戒光山西教寺縁起』や元文五年（一七四〇）に記された『戒光山西教寺律寺



化仏

記』によれば、第八世真源上人と納所永玉の尽力によって復興が進められ、仮本堂が建立されました。そして、天正二年（一五七四）に甲賀の浄福寺から阿弥陀如来像が移されて安置されたとあります。ただし、後世の記録です

ので、その信ぴょう性も含め、詳細は不明です。さて、ご本尊は、像高が二七八・三センチもある、いわゆる「丈六」像です。その顔は丸くべったりとしていて、肉体も起伏が少なく温和な感じですが、着衣もあつさり、衣文は浅く、体の奥行きも少なく、全体的に平面的な印象を与えます。これらの表現は、仏師定朝が十一世紀に確立し、平安時代後期に大流行した「定朝様」の典型的な作風です。この頃から無仏時代の末法の世の中となり、人々は不安だらけの生活を送ります。そんな中、平安貴族はこのような上品で安穩とした作風を愛したのです。おそらく極楽浄土の阿弥陀如来は、このようなお姿であるに



飛天

違いのない彼らは信じたのでしょう。

さらに、本像は全国的に見ても現存作例がほとんどない、平安時代の舟形の飛天光背を具備しています。透かし彫りで宝相華唐草文帯を表し、その外縁には左右六体ずつの化仏（本体と同じ弥陀定印の阿弥陀如来坐像）と、冠繪（リボン）と天衣、雲とで形作られた透かし彫りの中に、左右に六体ずつの飛天が配されています。飛天は様々な姿勢で表され、手には楽器や蓮華などを持っており、あたたかみ極楽から来迎しているかのようです。また、飛天と化仏は、顔の形や作風が少しずつ異なることから、複数の仏師が造像に関わっていることを考えられます。おそらく本像は、多数の仏師を擁する京都の大規模な仏師工房によって、十二世紀後半頃に造立されたと考えられます。このように本像は、化仏と飛天を表す平安時代の光背を残す稀有な丈六像であり、近江国を代表する阿弥陀如来の一体と言っても過言ではありません。

企画展
西教寺——大津の天台真盛宗の至宝——

於.. 大津市歷史博物館

天津市歴史博物館では、令和三年十月九日(土)から十一月二十三日(火)の会期で、企画展「西教寺―天津の天台真盛宗の至宝―」を開催する予定です。今回の調査で新たに確認された非公開の寺宝をはじめ、西教寺を代表する宝物を一堂に展示する予定です。天台真盛宗のことを詳しく知る良い機会ですので、ぜひご来館ください。

【概要】

比叡山の東麓、坂本の高台に天台真盛宗の総本山、西教寺があります。寺

伝によれば、飛鳥時代に聖徳太子の開基といい、平安時代には比叡山延暦寺の関連寺院として慈恵大師良源と恵心僧都源信が復興したといわれています。また、鎌倉時代にはいると、慈威和尚恵鎮が京都の法勝寺の末寺とし、法勝寺の戒律を重んじる寺として興隆をみました。さらに、室町時代の文明十八年（一四八六）には真盛上人が入寺し、上人を慕う人々が全国から集まり、戦国時代には法勝寺が合併しました。そして、念仏



真盛上人坐像 西教寺藏

の天台宗文化を持っていた西教寺と、天台真盛宗の至宝をかつてない規模でご覧いただくものです。

【展示構成】

I
西教寺の名宝

1. 古代の西教寺
2. 法勝寺と西教寺
3. 中興の祖 真盛上人
4. 法勝寺の併合と戦国の復興

II 西教寺の寺宝

1. 西教寺の仏像
2. 西教寺の絵画
3. 西教寺の書跡
4. 西教寺の工芸

III 大津の天台真盛宗

【情報】

会期.. 令和三年十月九日（土）から十

二月二十三日(火・祝)(38日間)

休館日…十月十二、十八、二十五日、

十一月一、四、八、十五、二

十二日

観覧料…一般八〇〇円（六四〇円）・



聖德太子像 西教寺藏

※()内は十五名以上の団体等の割引
 高大生四〇〇円(三三〇円)・
 小中生二〇〇円(一六〇円)

料金。大津市内在住の六十五歳以上の方は一般料金の半額。大津市内在住の障がい者の方、市内在住の介護保険の要介護者・要支援者の方は無料。

主催：天津市・天津市教育委員会・大

津市歴史博物館・京都新聞

特別協力・・天台真盛宗・西教寺

後援：朝日新聞大津総局、NHK大津

放送局、エフエム滋賀、共同通

信社大津支局、KBS京都、産

経新聞社、時事通信社、ZTV

滋賀放送局、中日新聞社、日本

経済新聞社大津支局、BBCひ

わ湖放送、毎日新聞大津支局、

読売新聞大津支局

会場：大津市歴史博物館（〒520-）

〇〇三七 大津市御陵町二番二

TEL 〇七七-五二二-二〇〇)

コロナ禍に迎えるお盆行事

昨年より続く新型コロナウイルス感染症は全世界の日常を一変させ、以前は当たり前に行われていたことが軒並み中止や延期となっている中で、ワクチン接種が一筋の光明となっています。

真盛上人ご在世の時、都に応仁の乱が勃発し世情が混乱する中で、比叡山においても治安の悪化に伴い仏供灯油が絶たれ、神事法会が中止されるなどの事が相次いで起こりましたが、上人はそれは為政者のせいではなく、僧侶自身が修行を疎かにし信仰の心を軽んじた為であるとして、自らを戒めておられます。このことから上人が世情に対して他人のせいにはせず自らの責任として受け止めておられたことがわかります。未曾有のコロナ禍にある私達も今こそ自らの在り方を反省し原点に帰ってこの困難を乗り越えていかなければならないと思います。

昨年に続いて本年の御本山の千部会も僧侶のみで四月五日に厳修されました。千部会は法華経読誦の功德を檀信徒各家のご精霊にご回向する法会ですが、特に読誦されたお経を聞くことについて、『法華経』『法師品』に、「若しこの經典を聞くことがあればよく菩薩の道を行ずるなり。この経を見、聞き、よく信じ理解し、よくたもてば、この人は無上のさとりに近づくことができる」と説かれており、お経の読誦と共に聞法することがいかに大切であ

るかが分かります。今年は皆様の参加は叶いませんでしたが、来年には以前にも増してごぞつてご参加いただけることを念願するものです。又、八月に入るとお盆の季節を迎えますが、お施餓鬼の法要の中心には法華経が唱えられます。先の『法師品』の冒頭には「法華経の一偈でも受持、読誦、解説、書

写し、お経を敬い種々の供養をする人は、かつて十萬億の仏を供養し諸仏のもとで大願を成就した為に今人間に生れてきたのであり、この人々は未來世において必ず仏となる」と宣言されています。今私達が人間として現世に生れてきたことに深い意味があり、それは過去に御先祖様が多くの労苦を乗り越えて命をつないできて下さったからこそ今があるのだと思います。

平常時とは違いコロナ禍という大変な時期にお盆を迎えます。このように考えると、私達にとってお盆とは、自らを反省し御先祖様の労苦に思いをいたし、家族の健勝とこれからの子孫達に幸せが来るようにとの願いを未來に伝えていくことであると思います。

今日まで断絶せず連なってきたお盆行事において、お念仏の手を合わせ、尊いお経を聞法できる喜びの心を持って、より一層御先祖様への感謝を捧げたいものです。

(滋賀教区神愛門中

法蓮寺住職 兼子鐵秀)

天台真盛宗の雅楽 がく

10

前回、慈摂大師御影供の画讃について説明させて頂きました。

その中で御影供の法要に準じてと申しましたが比叡山延暦寺に伝わる四大師の御影供は「慈摂大師御影供」のような管弦法要では有りません。

天台声明を厳肅に守ったもので雅楽については演奏する事が有れば雰囲気盛り上げるBGMとして付ける法要です。

これに対して「慈摂大師御影供」管弦法要は雅楽を声明の伴奏として唱える法要で、これこそが真盛宗だけが成し得る非常に他に類を見ないものです。真盛宗所を設立された故片岡義道先生は順次往生講式を研究される中、平安時代等では雅楽も声明での伴奏を担っていた事に着眼して雅豊かな順次往生講式の形態を慈摂大師御影供にも取り入れその画讃部分を講式の極楽聖歌の手法で作曲されたものです。

もちろん御影供としての法要形式や漢詩における作詞部分は従来の御影供の様式を外す事無く画讃の声明部分だけを講式の用法を使い作曲されました。

その中核『画讃』、雅楽曲では前半



部は五常楽破、後半部は萬歳樂を声明と共に管弦曲として演奏します。

画讃では最初に序(序曲)といわれる普通に唱える(拍子が無い)声明から始まり定曲と言われる拍子をとる本文へと移っていきます。

画讃だけ唱えても四十分近い壮大なもので十九萬日法要の中日で全てを厳修するにはあまりにも長く法要全体の時間を考えて画讃は勤めるのですが雅楽と合わせる管弦法要は後半の萬歳樂部分でのみ行うように練習をしています。

不断念仏相続十九萬日大法要の中日で厳修されます法要に参詣されました折には声明と雅楽が合わさった法要は今の現代になつては天台真盛宗でない御座いません平安時代の悠久の雅を感じて頂ければ幸いです。

(文責 多治見真篤)

令和三年 宗祖真盛上人鑽仰会法要・総会のご案内

毎年恒例の宗祖真盛上人鑽仰会法要・総会を新型コロナウイルス感染症拡大対策を講じながら、左記の日程で執り行います。

宗祖真盛上人のご遺徳を偲び報恩の誠を捧げる法要に、どうぞご参集賜りますよう、ご案内申し上げます。
とき…十一月九日（火）

十時より
ところ…総本山 西教寺 宗祖大師殿・本堂

法要…・宗祖真盛上人二十五霊場第一番
御詠歌石碑除幕式（予定）

・真盛上人鑽仰会法要
・善光寺如来御開帳（予定）

総会…事業報告、決算報告、監査報告、事業計画（案）、予算（案）等

※すでに会員に登録されている方はもちろん、未加入の方も是非この機会にご加入のうえ、ご参詣下さい。

※鑽仰会会員加入は随時、受け付けております。
年会費千円（七月一日～翌年六月末日）



昨年の宗祖真盛上人鑽仰会法要より 於：総本山 西教寺

西教寺 ☎〇七七一五七八〇〇一三
宗祖真盛上人鑽仰会

会長 川合歳明

納涼・厄除け 風鈴参道通り抜け

昨年春より、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、檀信徒の皆さまも大変窮屈な生活を余儀なくされておられることと拝察いたします。自由に友達と会うことも家族で旅行に行くこともままなりません。ストレスやフラストレーションを感じておられる方もいらっしゃると思います。未だ新型コロナウイルス感染症の収束には時間がかかりそうですが、幸い境内は広く密になりにくい環境です。

西教寺では、皆さまのお気持ちが一ひと時でも明るくなり、阿弥陀さまのご慈悲をお心に感じていただきますよう本堂前に「風鈴参道」を設けることになりました。

いまや長浜の一大観光スポット「黒壁スクエア」を展開する黒壁と協力し約七〇〇個のガラス風鈴を僧侶や職員で塗りカラフルな色に仕上げました。また、大人も子どもも楽しめる「ガラス風鈴の絵付け体験」や夏バテを防ぐ「納涼夏野菜そうめん」のお食事もご用意いたしました。売店では黒壁スクエアの中核をなす「黒壁ガラス館」より厳選されたガラス工芸品



の特設コーナーを設けました。拝観時間は、午前九時より午後四時三十分となっております。

是非、ご家族やお知り合いをお誘いのうえ、ご参拝いただければと思います。心よりお待ち申し上げております。（檀信徒用無料拝観券もしくは本紙を必ずお持ちいただき拝観受付でご提示ください。）

合掌



西教寺

コラボ企画

黒壁
KUROKABE

納涼
厄除け

風鈴参道通り抜け

二〇二二年七月一日(木)～九月二十日(月)

※天候等により予告なく中止になる場合があります。

ガラス風鈴
700個

昔から寺院では「風鐸」が吊り下げられています。風は疫病を運ぶと考えられ音を立てることにより邪気を払い、この音の間こえる場所は聖域として災いが起こらないと伝えられていました。江戸時代に入り魔除け・暑気払いとして、風鈴と名を変え庶民に定着したそうです。

ふうたく

※写真はイメージです。

発行所
天台真盛宗教学部
大津市坂本五丁目十三-1
総本山西教寺内

印刷所
宮川印刷株式会社
大津市富士見台三十八
電話(〇七七)五三三-二四一四

電話大津(〇七七)五七八-〇〇一三番代

大人も子どももオリジナル風鈴を作ろう
ガラス風鈴絵付け体験



絵付け用ペンやイラスト見本などをご用意しております。願い事を書いて風鈴棚に吊るし奉納できます。家に持ち帰っても結構です。

【場所】西教寺 大本坊 休憩室
【料金】1個 1,100円(税込)

ランチ 西教寺特製
納涼 夏野菜そうめん



【場所】西教寺 食堂
(営業時間/午前11時～午後2時 不定休)

【料金】1,000円(税込)

1日限定30食

黒壁ガラス館
厳選 商品コーナー



西教寺売店では、黒壁ガラス館より厳選された約15点のガラス工芸品を取り揃えています。(一部商品は適用除外)

【期間】2021年7月1日～9月20日